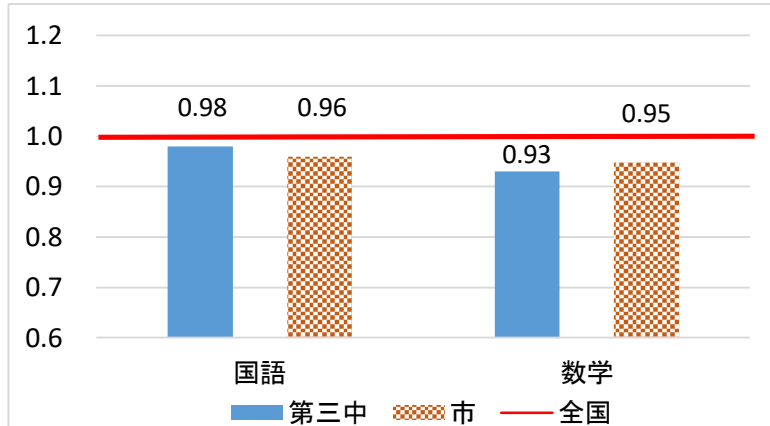


○調査結果（全国平均を1とした場合の平均正答率の比）



○調査結果についての分析、今後の改善方策

【国語】

領域別に見ると、特に「書くこと」の領域において、「記述式」の問題が全国平均を下回る結果であった。今後は、語句や文の使い方、段落相互の関係や文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えや気持ちの根拠を明確にした「書く活動」を取り入れて「書く力」をつけていく。

【数学】

各領域のうち、特に「図形」「関数」領域の「記述式」の問題において全国平均との差が見られた。一方で、「数学の勉強は好きだ」と回答している生徒の割合は多いため、引き続きその意欲を高めつつ、今後は、数学的な結果を事象に即して解釈したり、データの傾向を的確に捉えたり、問題解決の方法を数学的な表現を用いて説明したりできる力をつけていく。

【質問紙調査】

「学校に行くのは楽しい」「自分には良いところがある」の質問に、肯定的に回答した生徒の割合が、全国平均を下回る結果であった。今後、授業や学校行事等を通じて生徒の自己肯定感を高めていく。「1、2年生時、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたか」「自分の考えをまとめ、思いや考えをもとに新しいものを作り出す活動を行ったか」の質問では、全国平均を大きく上回っているため、今後もさらに話し合い活動を充実させ、自分たちで考える力をつけていく。

○学力向上の取組

【中学校区】

中学校区で全国学力・学習状況調査の結果を共有し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくりをめざしている。また、学力向上の土台としての「考える力」の育成や、地域とともに児童・生徒が認められる場面を多く作り、児童・生徒の自己肯定感の向上に努めている。

【学校】

学力向上と集団作りを目標に、ペア活動や班活動を通して話し合いや教え合い活動をすべての教科で実施し、「主体的・対話的で深い学び」につながるよう継続的に授業改善を行っている。